



難民の友に、難民と共に

アルペ通信 No.3

2021年12月

NPO 法人 アルペなんみんセンター 〒248-0001 神奈川県鎌倉市十二所80 イエズス会 日本殉教者修道院

Tel 0467-55-5422 E-mail: info@arrupe-refugee.jp <https://arrupe-refugee.jp>



難民は社会を成長に招くおくりもの

映画『グッド・ライ〜いちばん優しい嘘〜』は、スーダン難民がケニアのカクマ難民キャンプを経てアメリカへ第三国定住し、後にカクマ難民キャンプへ医師として帰って行く物語です。映画『はじめてのおもてなし』は、ナイジェリア難民が南ドイツの家庭に受け入れられ、裕福ながら、ばらばらだった家族が、難民との出会いによって癒され、人生の喜びを取り戻していく物語です。難民に対するとき、大事なは無償性です。それは、結果を期待せず、何ら直接の見返りを求めずに、それ自体がよいことだとい

うだけで、何らかをなす力です。結果として難民たちは、受け入れ国に大いに貢献する存在になっていっています。

アルペなんみんセンターを通して、日本に逃れてきて苦しい生活を強いられている人々が、日本社会の暖かさを少しでも感じていただき、生きがいを見出し、新しい一步を踏み出していきますように。アルペなんみんセンターのチーム、地域社会の方々のご奉仕に感謝するとともに、これからも皆さまの変わらぬご支援をよろしくお願いいたします。

上智大学教授 小山 英之
NPO 法人アルペなんみんセンター理事
非営利活動法人なんみんフォーラム代表

鎌倉市 SDGs 推進隊「難民について知ろう」開催



9月4日、鎌倉市が募集する「SDGs 推進隊」が難民についての勉強会を企画、小学3年生から中学2年生までの21名がオンラインで集まりました。世界と日本の難民の状況について講演し、スリランカ出身のFさんが体験を語りました。

その後、「アルペなんみんセンター」から参加した8名の難民が子どもたちからの質問に答え、交流の時間をもちました。子どもたちからは「難民の

子どもは学校に行っていますか」、「日本で好きな食べ物はなんですか」、「なぜ、こんなに大変な日本に来ることを選んだのですか」などの質問が飛び交いました。

「私たちにできることはありますか」という質問には、「将来大人になったときに、難民を受け入れる社会を作ってほしい」という回答もありました。

事前アンケートでは、難民について「あまり身近に感じない。どこか遠い国に大変な人たちがいるんだろうな」というイメージが聞かれましたが、開催後には「難民の方たちに直接会って、友だちになれたらとても嬉しいです!」という感想をいただきました。地域の子どもたちから、「ともに生きていく」ための歩みが始まっています。

地域連携コーディネーター 漆原 比呂志

地域食堂「ふらっとカフェ」への参加



月に一度近所で開催される、誰でもふらっと立ち寄れる地域食堂「ふらっとカフェ in 二階堂」に参加させてもらうようになってはや半年、アルペの難民が自分の国の食べ物や挨拶などを紹介する交

流コーナーが恒例になりました。学校で使っている地図帳を持ってきて難民の出身国を一生懸命探したり、興味津々で質問したりする子どもたちとの交流は、いつも嬉しさと新鮮さに溢れています。10月の交流コーナーのテーマは「子どもたちの遊び」、ミャンマー人Mさんはミャンマー式ジャンケンを披露。「軍人」「鉄砲」など体を大きく動かしてポーズをとるジャンケンに、大人も子どもも大盛り上がりでした。他にも、音楽コーナーではウガンダ人のBさんがアフリカの打楽器ジャンベを叩き、プレゼント企画ではコンゴ人Yさんと子どもたちのジャンケン勝負が繰り広げられるなど、個性いっぱい難民たちはいつも大活躍。役に立てること、受け入れてもらえることが嬉しく、月に一回の開催日はとても楽しみなものになっています。

プログラムコーディネーター 及川 いずみ

「オニンギリ」

ある日、6歳になるコンゴ人のMちゃんが幼稚園から戻ると「オダンゴ作って」と私にせがんできました。ところが、今までお団子を出した覚えがないので、話をよく聞くと「おにぎり」のことでした。



具体的にはツナとマヨネーズが中に入り、お塩をまぶさないまま海苔をからめたものが食べたいという願いでした。徐々に「オダンゴ」を（彼女の発音を再現すると）「オニンギリ」と言うように変化していきました。最近ではママにもお願いして、お弁当と朝食用に毎朝2個のオニンギリを作ってもらっています。

この例からも伝わるように入居者は、ご飯が大好きです。ある時、お米が切れてしまいました。非常食用のパックご飯（賞味期限がきれかかっていた）を開けながら「お昼はこれで良いけど、今夜どうしよう…」と途方に就いていたところ、「〇〇修道会から届いたよ」と、お米の袋が現れた時には全身が震えるほどの感動を覚えました。偶然と言ってしまうかもしれませんが、絶妙なタイミングでミラクルなことが起こるのがアルペなんみんセンターなのです。

調理担当 Sr. 津田 和加子
コングレガシオン・ド・ノートルダム修道会



もっと知りたい

難民のこと

おすすめ映画

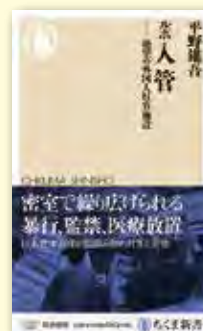
グッド・ライ ~いちばん優しい嘘~
2014年、アメリカ



Amazon Prime Video、YouTubeなどで有料で視聴可。

おすすめ書籍

ルポ 入管
絶望の外国人収容施設



平野雄吾著、ちくま新書、2020

サポート体制・ネットワークが広がっています



JCAP 難民移民支援ネットワーク会議に参加しました!

9月27日オンラインで開催された難民移民を支援するイエズス会アジア・太平洋協議会 (Jesuit Conference of Asia Pacific) に参加しました。12カ国から38名参加がありました。国際ネットワークを通して、世界的な難民の課題にも取り組んでいきます。



医療サポートの体制が充実してきました!

7月から土屋医師、弓野医師、富永鍼灸師による医療相談がスタートしました。地元の酒井医師にも訪問いただいています。



第63回 鎌倉市民合唱祭に難民6人が参加しました!

ジュニア合唱団「なぎさ道」の練習に難民も参加しています。市民合唱祭にも参加させて頂きました。



国際協力 NGO JLMM との協働が始まります!

JLMM 事務所が東京からアルペに移転しました。難民キャンプへのボランティア派遣などで協働予定です。

■ テレビ / 新聞等で紹介いただきました！(2021年4-12月)

- ・地域交流で“社会とのつながりを” NHK ニュース 2021年10月20日
- ・「世界難民の日」オンラインで交流 NHK ニュース 2021年06月21日
- ・アルペなんみんセンター紹介 鎌倉 FM 2021年06月21日
- ・難民過去最多「コロナでさらに困窮」 TBS ニュース 2021年06月20日
- ・生きていてよかったと思える家を ころこの友(日本キリスト教団出版局) 12月号
- ・難民の人々を歓迎できる社会に！ 福音宣教 12月号
- ・母国逃れてきた人、日本にも 朝日小学生新聞 2021年10月21日
- ・代理人弁護士「歴史的」=難民支援団体も歓迎—強制送還「違憲」判決 時事通信 2021年9月22日
- ・名前呼びあえる関係になって自分事と考えて 東京新聞 2021年9月18日
- ・鎌倉の支援シェルターが日本の難民政策に一石 ----->
- ・難民問題も「まちのコイン」でジブンゴト化 SHONAN TIME 2021年7月28日
- ・鎌倉にたたずむ難民シェルター 閉じた心、取り戻すため ----->
- ・まちのコインで難民さんが笑顔に！ “誰一人取り残さない” 社会の実現に 面白法人カヤックの取り組み 面白法人カヤックニュース 2021年6月18日
- ・コロナ禍で増える入管の仮放免 就労不可で困窮も ----->



朝日小学生新聞新聞



東京新聞1面に掲載されました！



東京新聞



朝日新聞



日経新聞

■ 物品寄贈のお願い！

下記のものを集めています。ご協力をお願いいたします。

- スーツケース、リュックサック、カバン
- 未使用切手、未使用はがき、書き損じはがき
- ノートPC、タブレット



クリスマス献金 / 寄付金のお願い

2020年4月から活動を開始し、住居に窮する25人の難民認定申請者を受け入れてきました。その間、北海道から沖縄までの多くの皆様の寄付金、食料や衣類などの物品寄付に支えられてきました。また、入所者への医療支援、日本語指導、食事作り、施設維持等のボランティアとして地域の皆様にご支援を頂いています。改めて感謝申し上げます。

2021年11月、1951年の難民条約採択から60周年、また日本の同条約加入から30周年を記念して衆議院、参議院の本会議全会一致で「難民の保護と難民問題の解決策への継続的な取り組みに関する決議」が採択されました。

国会決議から10年、難民条約加入から40年の今年、その決議は、残念ながら実現されていません。それどころか、先の通常国会で廃案になった「難民

を収容し送還できるようにする」入管難民法改正法案に象徴されるように、難民の「保護」よりも「排除」する方向に向かっています。

一方で、日本での難民政策の貧しさ、とりわけ入管施設で数々の人権侵害とみられる処遇が長年にわたって行われていることがマスコミ報道などで、広く知られるようになってきました。スリランカ人女性ウィシュマ・サンダマリさんが入管施設で亡くなった痛ましい事件もそのひとつです。豊かで平和と言われているこの日本で、多くの命がないがしろにされている現実に驚きと怒りを感じているとの声も多く届くようになりました。

引き続き、日本に希望をもって来日した難民に寄り添った活動を行なっていきます。ご支援をいただければ幸いです。

事務局長 有川 憲治

郵便振替 00250-6-107205 NPO 法人アルペなんみんセンター

*ウェブサイトから銀行、クレジットカードでのご寄付が可能です。

